

平成31年度 生駒小学校 全国学力・学習状況調査について

2. 算数

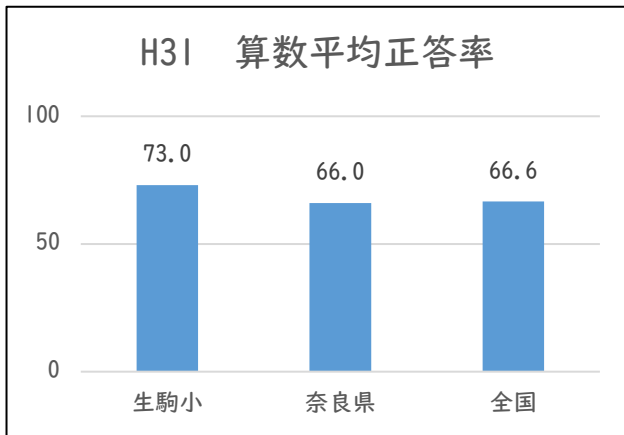


図1

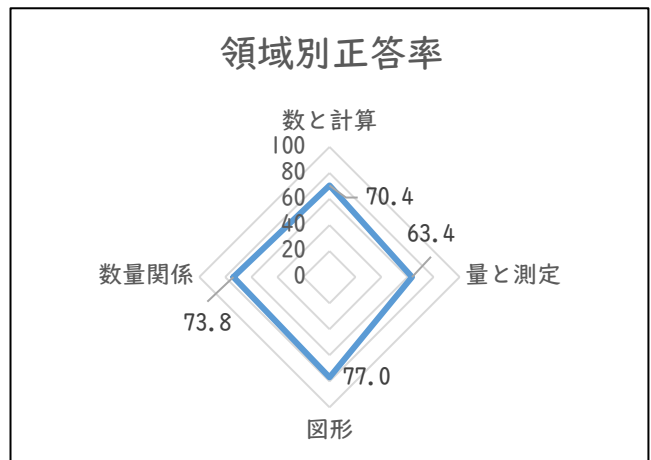


図2

算数については、生駒小学校の正答率が73.0%で奈良県平均(66.0%)や全国平均(66.6%)より高い結果が出ました(図1)。

領域別の正答率は、数と計算が70.4%、量と測定が63.4%、図形が77.0%、数量関係が73.8%でした(図2)。

「量と測定」の領域の正答率が他の領域に比べて低くなっています。「減法の式が、示された形の面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して書く」問題は58.8%、「二つの棒グラフから、一人当たりの水の使用量についてわかることを選び、選んだわけを書く」問題は59.8%と正答率が低く、無解答率も高くなっています。両方とも記述式の問題であり、児童は、計算の仕方や求め方はわかっているにもかかわらず、それを文章で説明することができないようです。問題形式別に見るとこれら記述式の問題は、選択式や短答式の問題よりも約20ポイント正答率が低くなっており、言葉を用いて表現することが本校の課題と言えます。

具体的な手立てとして、授業の中で式が何を表しているのかを図や言葉で表現する学習活動を進んで行ったり、絵や文や記号を使って考えを書く活動を重視し、ICT機器を活用して、書いたものをクラス全体で交流したりしています。

その他に、「減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめる」とどのようになるのかを書く」問題では、正答率が39.2%でした。これは除法の計算を能率的にするための工夫を、減法の計算の工夫を用いて説明するものです。

計算をする際には、ちょっとした工夫で難しそうなお計算が易しく簡単なものになります。実生活でも役立つ計算のコツや工夫を理解できれば、算数好きな子どもがもっと増えるにちがいません。